

<b>学校教育目標</b>		<b>重点目標(中・長期的目標)</b>
生きる力を育てる、地域を担う人間づくり		
①共に生きる力を養う(集団の中での自己理解、他者理解を含め、他者との共存をはかる) ②夢をかなえる力を鍛える(問題解決能力を養い、自分の能力を開発し、人格を高める) ③地域の理解(地域と積極的に関わり、地域から学び、視野を広げる)		①地域からの信頼を高め、地域を担う人材を育成する ②人間としての在り方、生き方を深める教育を展開する
<b>今年度の重点目標</b>		
I 基本的な生活習慣の確立・定着をめざし、体験学習を通して自尊感情や規範意識を育成する II 計画的な進路指導を実践する IV いじめ・体罰のない、明るく安心な学校を作る		III 地域に活動をアピールし、理解を得る V 授業改善等職員研修をすすめる
<b>総合評価</b>	<b>成果と課題</b>	<b>改善策と向上策</b>
授業改善を全体のテーマに掲げ、授業内容や展開の仕方の改善と、カウント指導による授業規律の確立に取り組んだ。生徒は授業に取り組む姿勢を、教師は授業内容について考えるきっかけとなる一年となった。生活指導面ではまだまだ課題が山積しているものの、生徒の自律を促しながらの予防的な指導が粘り強く行われ、多くの生徒が落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができた。	HPによる情報発信に力を入れたことで、学校行事や部活動、生徒会活動等における生徒の様子を定期的に発信することが出来た。授業改善を進める上で、授業規律に関してのカウント指導の運用には再検討が必要である。キャリア教育を軸とした教育活動の再編成と授業改善をとおして、進路への意識をいかにして高めていくかは、引き続き来年度の課題として残った。	進路を見据え、授業をより良いものにするために、カウント指導については、再度その意義やルール、運用法を確認し、統一した指導が実施できるようにしていく必要がある。授業改善に関しては、生徒の実態に即した授業内容の研究を進めていくことが望まれる。また、生徒自身からの呼びかけが広まっていくことも期待したい。

1 教育活動について

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策と向上策
<b>教育課程</b>	現教育課程の点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>コース別編成をはじめ、現教育課程が学校目標の達成につながる十分なものであるか点検することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態を見ながら、カリキュラムの適応性を検討することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再編した26年度入学生用教育課程が2年目をむかえる27年度は、各コースの設定理念に基づいた有効な授業が展開できているか、カリキュラムの適応性について検討していく必要がある。</li> </ul>
	新しい教育課程の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>現教育課程の点検に基づき、学校の特色を生かした新たな教育課程の編成を検討することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状と26年度入学生用教育課程をもとにして、27年度入学生用の教育課程を編成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態をもとに、さらに適したコース、科目、単位数、実施方法などを検討する必要がある。</li> </ul>
<b>学習指導</b>	学習環境の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>一昨年度導入されたカウント指導を全職員で実施し、基本的な学習習慣と学習環境の確立に向けて努力できたか。</li> <li>カウント制に関する意見を教師・生徒他から拾い上げ、制度の更なる改善をはかれたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウント数の整理と面談、遅刻数の集計と面談を実施した。集計のファイル作成が年度が始まってからは厳しかった。学年担当との細かい打合せが不十分だった。</li> <li>カウント制に関し教師から意見集約をした。授業に関する考え方や方針が様々で簡単にはまとめられなかった。委員会の実施時期が遅すぎた。授業に取り組む準備として一定の抑止力となっている。課題としては携帯電話に関しては指導上の困難さがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウントの項目について授業に関わる部分と生活指導に関わる部分の整理をする。</li> <li>携帯電話の扱いはもう一度全体で考えていく必要がある。</li> <li>授業改善と授業妨害の指導の見極めをしていく。</li> <li>カウント指導と遅刻指導との比重について検討する。遅刻指導については集計方法などを工夫して授業準備にあてる時間の確保も考えていく。</li> </ul>
	きめ細かな学習指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別及びコース別授業編成を生かすことができたか。</li> <li>全ての生徒に分かりやすい授業という観点で、授業のユニバーサルデザイン化に取り組むことができたか。</li> <li>授業に取り組む生徒の様々な面を知る、また、教員同士の授業力の研鑽を目的として、公開授業を行うことが出来たか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語、数学に於いて、習熟度別授業を実施し、学力幅の大きい生徒たちに即した授業を展開することができた。</li> <li>授業に関するアンケートで多少の参考意見はでたが、まだ、各教科や個人の工夫で留まっている。</li> <li>教員同士の公開授業を春秋それぞれで1週間ずつ実施し、授業力の研鑽に役立てることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各習熟度の講座で扱う授業内容には差があり、評価の際に母集団を同じにすることは困難な現状がある。より良い評価方法を検討する必要がある。</li> <li>校内での取り組みの共有化と、他校の実践を引き続き学習し、授業に還元していく必要がある。</li> <li>教員同士の公開授業週間を設定して見学し合うことで、教員経験の長短にかかわらず、お互いに刺激になるため、来年度も設定して行っていけるようにしたい。</li> </ul>

	総合的な学習の時間の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を大切にする教育ができたか。</li> <li>・それぞれのコースの内容にそった探究活動ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の出前福祉講座、2年次のコース別福祉施設実習での身障者との交流を通し、相手を思いやる取り組みができた。</li> <li>・1年次の就業体験では、興味・関心のある職種を体験することで、2年次のコース別体験学習では自分自身の進路に沿った体験をすることで、進路について考えるきっかけになった。</li> <li>・3年次では、進路別に学校や事業所を見学し、進路活動に結びつけることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の取り組みの姿勢が受け入れ施設から評価されているので、来年度も継続していく。</li> <li>・総合的な学習の活動を通じて、もう少し早い時期から進路意識を高め、実際の進路希望に結びつく活動ができるとよい。</li> </ul>
特別活動	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員に、自治意識と自治能力を涵養するべく指導することができたか。</li> <li>・生徒会役員以外の生徒に、市民意識を涵養するべく指導することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の役員会を生徒自身に運営させることをはじめ、行事なども生徒に主体的に考えさせ、取り組ませることができた。</li> <li>・生徒総会の採決方法を、各自の意志を表明しやすいよう工夫したり、各行事の意義などを周知する努力をし、主体的に取り組むよう指導することはできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体制にかわり、役員自主性を涵養することに苦勞しているが、各行事などを通じて少しずつ成功体験を積み、生徒のリーダーとしての自覚を育てていく必要がある。また、生徒総会の採決方法は、一般生徒の市民意識の涵養が継続して必要である。生徒会活動で努力することは当然であるが、市民意識の涵養という観点で、各教科と連携を取って生徒に向き合っていくことができれば、更に良いと思われる。</li> </ul>
	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動への参加・継続を促すことができたか。</li> <li>・部活動に精一杯取り組む生徒を応援し、その魅力ある姿を評価し支えることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初には、部活動への加入を呼びかけることができた。</li> <li>・大会の前には生徒会新聞で全校生徒に各部のコメントや試合日程などを周知したり、生徒会役員が応援に赴き、写真を撮って校内に掲示するなどできた。また、壮行会を丁寧に行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒の壮行会は、全校生徒の壮行する姿勢に問題が多く、大会に赴く生徒や準備を進めた役員が切ない思いをする場面もあった。いかに全校生徒の意識と行動を変えられるかが、大きな課題である。</li> </ul>
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立に向けて指導することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校門での挨拶や、昼の外出予防のための立ち番、問題行動予防のための巡回を行った。</li> <li>・全職員の協力のおかげで、朝の遅刻者や昼休みの外出者は前年度に比べ激減した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の遅刻に関しては、保護者の協力なくして減少は難しい。起床時刻や朝食、弁当の持参など、基本的な生活習慣向上を促すアプローチが必要である。</li> <li>・登校後の生徒の状況は、時間をおかずに家庭に連絡。また、その日のうちにサボリや中抜けを把握でき、情報を共有できるシステムが必要である。</li> </ul>
	社会性・協調性の育成と主体的な行動の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校風規律を遵守させることができたか。</li> <li>・通学マナーなどの交通規則を遵守させることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査毎に頭髪指導を行った。</li> <li>・制服の着用の指導に関して課題が多い。</li> <li>・特に下校時の通学路での喫煙の形跡が見られるため下校時の巡回を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭髪指導に関しては、明確な基準と日時を全職員で共有する必要がある。</li> <li>・登下校時の喫煙の問題については見回りの強化を図る必要がある。</li> <li>・コンビニ等で買った商品のゴミをポイ捨てする生徒が多いため、清掃活動とともに汚さないための指導を行う必要がある。</li> </ul>
	事前指導・啓発活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前防止指導、啓発活動を行うことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭髪の改善・制服着用についてポスターを掲示して呼びかけを行った。</li> <li>・喫煙・ゴミのポイ捨てなどが目立ってきた時期にSHRでの全校放送での呼びかけを行った。</li> <li>・薬物防止・自転車安全・性教育講話などを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪地区において登下校中の自転車による交通事故が多発しているため、本校においても自転車安全講話等を充実させる必要がある。</li> <li>・スマホ・ネットなどの問題事例もあるので、これらについての講話等の実施・指導の充実を図りたい。</li> </ul>
	生徒・保護者・職員間の信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域と連携を図った指導をすることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAの諸会合、学校評議委員会、諸会議等で基本的な考え方、近況や課題を伝え、理解と協力を求めた。事例発生時、各担任から迅速な家庭連絡が行われ、指導へ円滑に移すことができた。地域からの苦情では、誠実に速やかに対応することに努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校職員は、保護者や地域の方々と積極的に交流を行う。また、保護者や地域の方々に本校教育活動に参加していただく。活動内容や現状の多くを知っていただき、協力や助言をお願いする。</li> </ul>
	正しい判断力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盗難、いじめ、威圧、器物損壊、授業妨害を起ささない指導をすることができたか。</li> <li>・喫煙、飲酒などのケアをすることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学当初生徒間での威圧行為などが起きたが迅速に適切に指導できた。</li> <li>・喫煙・飲酒はその都度適切に指導を行うことが出来た。</li> <li>・スマートフォンの普及でツイッターやラインのトラブル、スマホ依存に近い状態など新たな問題ケースが出てきている。事例の指導とともに、携帯電話の講話を行うなど生徒への意識づけも行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身へ罪の意識や体への害を認識させるとともに、未成年者喫煙禁止法など保護者の監督意識の向上も促す。また、少年事例に特徴的である共犯という観点から、自浄効果を促すための指導が必要である。喫煙形跡ヶ所の巡視と清掃を徹底する。</li> <li>・スマートフォンについては、継続して講話や使い方の指導を行う必要がある。職員もスマートフォンの知識を高めて生徒への指導にあたる。</li> </ul>

個に応じた手厚い指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者と連携し、個に応じた指導と教育相談活動ができたか。また、本人が求めるスキルを充実、提供することができたか。</li> <li>・特別支援教育に向けての体制作りの強化、研修ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は特別支援教育支援員とスクールカウンセラーの協力で延べ142人の面接相談ができた。必要な生徒には特別支援教育支援員より継続的なスキルトレーニングを実施した。就労支援は“オアシス”、発達検査は養護学校への相談・協力という連携の道筋も確認できた。</li> <li>・特別支援教育に関する研修は1回であったが、より具体的な事例研修を望む声が多かった。課題が山積する中、生徒相談係と学年との情報交換及び依頼協力というつながりを更に深めた方が良かった事案があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は特別支援教育支援員の配置はないと考えられる。今年以上に学年選出の相談系の面談業務は増え、学年と相談係とのコーディネートは綿密にやらなければならない。ただし、相談係で対応するには要員不足は否めないのにより協力体制を確認しながらやりたい。</li> <li>・“オアシス”、養護学校、スクールソーシャルワーカー、児童相談所等への連携は身構えることなく相談していかなければならない状況がある。</li> <li>・来年度の研修は県に申請する「発達障がいサポーター養成講座」は具体的な対応方法の研修としては有効だと考える。</li> </ul>	
進路指導	進路実現へ向けての意欲の喚起と実力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望や適性を考慮して、生徒の進路選択に関する意識・自覚を高めることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業適性検査・進路希望調査などの結果を活用し、担任・進路係が連携し就職支援アドバイザーの協力を得ながら進路面談を実施し、意識を高めるよう努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業適性検査、職場体験、学校見学、進路ガイダンス面談などを通じて、意識を高めようとする取り組みは継続していく。進路意識を高めるため、今年度も進路通信を発行した。</li> </ul>
	生徒の進路希望を把握し、その達成をサポートする適切な指導ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で適切な時期に進路希望調査を行い、主に担任との面談を通じて、生徒の進路希望の把握を行った。三者面談などを通じて、保護者の希望も聞きながら連絡を密にして、進路指導を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望を確認し、担任や進路係との面談の中で、今後の生徒の活動計画を具体的な形で話し合い確認した。特に、動き出せない生徒については面談の回数を増やし話し合う機会を増やすしかない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習については、効果があったと考える。基礎学力の底上げについては、1年生や2年生の早い時期から計画的に取り組む必要を強く感じる。</li> </ul>
	進路ガイダンス、小論文(作文)指導、面接指導、計画的な補習や校外模試の実施により、志望校や志望企業の合格を目指した指導を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望、進学希望の生徒とも、基礎学力の底上げ、充実を目指して、夏休みから補習を行った。国語、数学を中心に、小論文や作文、面接指導などを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望、進学希望の生徒とも、基礎学力の底上げ、充実を目指して、夏休みから補習を行った。国語、数学を中心に、小論文や作文、面接指導などを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補習については、効果があったと考える。基礎学力の底上げについては、1年生や2年生の早い時期から計画的に取り組む必要を強く感じる。</li> </ul>
	生徒の多様な進路希望への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元事業所の職場状況、景気の動向などを把握し、就職に役立つ情報を提供し、事業所見学を奨励することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の就職状況の厳しさ、就職の心構え、就職試験の実態、企業の人事担当者の考えなどを知らせるため、進路通信を発行した。応募前の早期の企業見学会を行い、実際に会社を自分の目で見て得られる情報が多くなるよう努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路通信を通じて、景気動向や職場事情、就職への意識改革の必要性などを、生徒や保護者に伝えるよう努めた。ある程度効果はあったと考える。事業者見学については、ある程度応募を前提に、少人数で2～3社を見学した方がよい。</li> </ul>
	上級学校卒業後の進路や取得できる資格を考慮し、進学先に関する情報を提供し、積極的に学校説明会・オープンキャンパス等に参加させることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的な事情で、地元の大学・短大・専門学校に志望が集中している。担任や進路係が、それらの学校の詳細な情報を提供している。学校説明会やオープンキャンパスにも積極的に参加させた。また、奨学金制度についても独自に資料を作成し、丁寧に説明した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・短大・専門学校とも、地元の指定校希望の傾向は変わらないと考える。学校説明会・オープンキャンパス・進路相談会の情報を流し、積極的な参加を勧めた。また、職員も、学校説明会に積極的に参加し、情報収集に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・短大・専門学校とも、地元の指定校希望の傾向は変わらないと考える。学校説明会・オープンキャンパス・進路相談会の情報を流し、積極的な参加を勧めた。また、職員も、学校説明会に積極的に参加し、情報収集に努めた。</li> </ul>
	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の見地から進路指導計画や実際の活動を見直し、計画的で、体系化され、より効果的なものに近づけることができたか。またその結果、生徒の進路選択を行う力を育み、伸ばすことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、2年次のキャリア教育の充実に努めた。昨年に続き、諏訪圏工業メッセや就業体験などの取り組みを行った。3年次の就職活動につなげるため、1月中に2年生全員の進路面談を進路係が中心となって行った。ある程度の成果はあったと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路行事の見直しを行い、より適切な行事を適切な時期に行うようにする。</li> <li>・職員対象(特に新採用や経験の浅い職員)の企業見学や研修会が必要である。</li> <li>・他校の取り組みに学び、現行の内容を改善し、場合によっては、新しい取り組みを行う必要もある。</li> </ul>

2 学校運営について

地域との連携	地域への広報活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA役員会や学校評議員会での学校報告、文化祭一般公開、茅野高フォーラム、茅野高ホームページでの情報発信、中学校での説明会が実施できたか。</li> <li>ホームページの定期的な更新ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信という点においては、HPの定期的な更新と、写真による活動の紹介を重点的に行い、一定の成果を上げることができた。また、保護者宛ての連絡に関しては、通知に加え、オクレンジャーを活用したことで、効果が上がったと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より魅力的なHPになるようリニューアルをし、学校生活のみでなく、部活動や生徒会活動のコンテンツにおいても定期的な更新を行っていきけるようにし、写真を積極的に活用して生徒の活動をPRできるようにしていきたい。</li> <li>地域への情報発信という点に関しては、HPの他にどのようなことが効果的であるかを検討していくとともに、地元メディアへの取材依頼なども積極的に行い、学校外からも情報の発信ができるように働きかけていく必要がある。</li> </ul>
	地域の人材、施設の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間や、福祉コースなどコースの特色ある授業への協力要請・外部講師の依頼、また、部活動の指導要請ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間では、地域に協力を依頼し、体験型の学習に取り組んだ。3年生の福祉コースでは、年間を通して毎週金曜日に地域の高齢者施設や保育園に出かけ、介護や保育の一日実習を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も地域に出での学習を継続し、地域で育ててもらおうということで、普段の学校ではできない経験をしたり、地域の理解を深めることを通して、自尊感情や規範意識の向上につなげられるような教育の実践を継続していくことが必要である。</li> </ul>
	地域への奉仕活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>やすらぎ喫茶、三校一斉清掃、クリーンウォーク等、地域が主催するボランティア活動に積極的に参加できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記の活動を始め、その他地域からの要請で、ボランティア活動に積極的に参加する機会が多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員が『地域活動部』に所属することになり、地域へのボランティアに参加しやすい体制が整った。来年度は、顧問も無理のない範囲で、積極的に活動する生徒を増やしていくことが望まれる。</li> </ul>
校内研修	授業公開を通しての理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉公開授業期間を設定できたか。</li> <li>教員相互の授業公開期間を設定できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は公開授業を26日間設定し、行った。また、教員同士の公開授業を4, 6, 10月にそれぞれ1週間ずつ実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPで地域の方へのPRをもっと積極的に行うとともに、保護者の方の参観を増やせるよう、保護者通知に加え、オクレンジャーを積極的に活用していくことが重要だと考えられる。</li> </ul>
	職員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の実情に応じた研修を実施できたか。</li> <li>初任研を実効あるものとしたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に関する研修、エコマネジメント長野に関する研修、非違行為防止に関する研修、情報セキュリティ研修をそれぞれ一回ずつ、授業について考える研修を二回行った。また、県内外の学校への視察を4回行った。</li> <li>本校の実情を考えて、必要性があるものに関しては年度途中でも計画して実行した。</li> <li>初任研の校内研修として、初任研委員会を中心に若い教員も交えて月に一回程度の研修を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初の計画に加え、必要があれば年度途中でも計画して実行できるよう、来年度も柔軟に対応できるような体制が望まれる。</li> <li>初任研に関しては、今後も充実した研修となるよう、初任研委員会が中心になって計画して実行していくことが必要である。また、若い教員が多い本校の実情を考えると、他の教員も巻き込めるような校内研修に発展させていけるよう、考えていきたい。</li> </ul>